

# 市民文芸

## 短歌

阿南市文化祭秋季短歌誌上大会 選

特選 艶増して色付き初むるブチトマト我うし  
ないし色香のひとつ 中原きみ子

特選 不用意に野戦病院などと言うコロナはウ  
イルス戦争は人 森 マスミ

特選 草も木も語りかけくるこの里を一度は捨  
てし負い目のありぬ 小畑 定弘

特選 志願して兵隊に行った叔父さんは鴨居の  
上で今も十八 棋野早智子

特選 おみやげと差し出す花は野紺菊夫のやさ  
しさに沁みる 十河 慶子

特選 目覚むれば庭にキビタキ鳴きいづる窓に  
当たりし去年の君か 井坂 絹子

入選 刈り立ての粉袋の上のぬくぬくに幼も乗  
せて夫の軽トラ 庄野 悦子

入選 長寿得て召されしお顔になお余裕 子・  
孫・ひ孫らみな集はせて 松本加代子

入選 おばあちゃんいくつになつたん問う孫は  
二十二才の娘になりぬ 湯浅 節子

## 俳句

阿南市俳句連合会 選

初氷頂上ヒュッテから便り 河内 順子  
釜揚げのうどん打つ音山紅葉 久米 千草  
日向ぼこ昭和の時空もどりくる 青木 慧  
ひと年がひと日のように年暮るる 谷中喜代子  
冬ぬくし本に挟みし銀のペン 野口 千代  
山茶花や首をかしげる陶狸 佐々木八千代  
わが靴のすっぽり入り朴落葉 末岐 美子  
御朱印を待つ長椅子の小春日和 末広なおむ  
五十年変らぬ故郷冬景色 岡本 隆子  
山々の雪の景みる旅の宿 柏木 暁代

## 川柳

阿南川柳会 選

やんわりと自分をとおす阿波女 滝川 太郎  
二度とない人生にある福の神 二階千代美  
ダイヤ婚白寿くるまで赤い糸 西田 修身  
信念を捨てた候補のボス詣で 野口 吾朗  
弱い子に弱いと言わぬことにする 原 公美子  
爺ちゃん足は弱いが気は強い 福良 充雄  
ストレッツチ体のゴミを捨てている 持木 寿栄  
ピリオドの位置を違えた喜寿のペン 渡邊 浪漫  
一般応募  
コロナ禍と隣り合わせで年明ける 島尾美津子  
窓を拭き空も一緒に拭きました 武田 敏子

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

令和三年歳晚 神原 常経  
崢嶸歳晚北風寒 崢嶸たる歳晚 北風 寒く  
逝水流年今夕彈 逝水 流年 今夕 彈く  
老大猶存作詩夢 老大 猶お存す 作詩の夢  
青雲路遠苦吟歎 青雲 路は遠く 苦吟を歎く  
早春即事 折野 博子  
三冬十里竟無花 三冬十里 竟に花無く  
枯柳千絲未發芽 枯柳の千糸 未だ芽を發かず  
庭角早梅暗香動 庭角の早梅 暗香動き  
芳春先到野人家 芳春先ず到る 野人の家

## 春日偶成

谷口田鶴子

南窗極目一天晴 南窗極目 一天晴れ  
庭院紅梅招早鶯 庭院の紅梅 早鶯を招く  
拈筆賦春暖午 筆を拈り春を賦す 春暖の午  
幽居獨靜弄詩情 幽居独り靜かに 詩情を弄す



【ハウスふき】

地下茎から出てきた葉の柄が可食部の、独特のほろ苦い味と香り、歯ごたえが特徴の春の山菜です。本市ではハウスで促成栽培が行われ、12月～7月まで出荷。ハウスふきは柔らかく、良好な品質で市場でも高評価を得ています。